

アーカイブズ活動におけるオーラルヒストリーの役割 Role of Oral History Method in the Archives

難波忠清、木村一枝、久保伸、井口春和、松岡啓介、遠藤満子

NAMBA Chusei, KIMURA Kazue, KUBO Shin, IGUCHI Harukazu, MATSUOKA Keisuke, ENDO Mitsuko

核融合科学研究所 核融合アーカイブ室
Fusion Science Archives, NIFS

1. はじめに

歴史をひもとこうとする時、文献資料の欠落や遺された資料間の関連が不確かなため、必ずしも史実が明確でない場合が多々ある。核融合アーカイブ室 (FSA) では、核融合研究の歴史的な流れをより明確に理解するため、文献資料を補い、或いは資料間の関連性を明らかにすべく、関係者を対象とするインタビューを行い、オーラルヒストリーとして記録に残す活動を行っている。

「オーラルヒストリー」と言うとき様々な形態があり得るが、FSAでは、これまで主としてテーマを設定したインタビューを実施してきた。これまでに実施してきた10例余りのインタビューの経験に基づき、その手法や留意点などを総括し、今後の活動に役立てたい。

2. インタビュー実施の手順

インタビューは、相手により若干異なることはあっても概ね以下の手順で実施される：

(1) テーマの設定・インタビュー어의選定

テーマを先に設定し、そのテーマに相応しいインタビュー어를選定する場合と、その逆のケースとがあるが、FSAの場合では、ある程度はテーマを念頭に置きつつも、インタビュー어를先に選定するケースが多かった。インタビュー어は、この分野の研究における先達の中から選ぶこととなり、必然的に候補者が絞られるという事情にもよる。

(2) 資料調査とインタビュー어への事前質問状の作成

テーマ及びインタビュー어が決まった段階で、具体的にどのような質問をすべきか、インタビュー어は当該のテーマにどのように関わったのかなどについて、「記憶」や「印象」に頼らずできるだけ資料、例えば関連する委員会などの議事録等、関連する論文等により調査する。特に、関心を持つ出来事に関連した複数の事象の時間的前後関係について調べておき、例えば年表を作成するなどしておくことは重要である。それらの調査に基づき具体的質問状を作成し、十分な時間的余裕をもって事前にインタビュー어に届ける。これまでの経験では、インタビュー前に、しかも文書で回答を寄せて下さったインタビュー어もあった。

(3) インタビューの実施

インタビューは、インタビュー어가一人の場合と複数の場合とがあった。どちらが良いとは一概には断定できないが、一人の場合でも音声記録、写真(映像)記録を担当するスタッフを別途配置することは不可欠である。複数の場合には、進行役を務め

るメンバーを置くことは必須で、質問自身は当該の質問の提案者が行うことが多い。また、複数、それも数人以上の場合には、インタビューではなく「座談会」になってしまう危険性をはらんでおり、インタビューア間の事前の打ち合わせが重要である。インタビューの実施場所は、インタビュー어의都合に合わせるケースがほとんどであり、海外で実施したケースもある(吉川庄一氏、大河千弘氏など)。

(4) 記録の作成・編集

記録の作成・編集は、単に「テープ起こし」の作業に留まらない。音声記録だけでは判別が困難な言葉(特に、固有名詞)などの解明、記録として直ちに公開するには適切ではない箇所に対する処理、インタビュー어의記憶違いなどで事実と異なる発言の部分に対する処理など、多くの作業が必要とされる。時としては、この段階で確認のための追加の短いインタビューを実施したケースもある。最終的にはインタビュー어に確認をとる作業が必須である。出来上がった記録は、資料としてアーカイブ室に登録・保存される。また、希望者には配布される。一方、「生の」音声記録やテープ起こしされた編集前の記録も保管される。

3. まとめ

- 上記の手順によりインタビューを実施するためには、1件のインタビューを完了するために、少なくとも1年以上、時としては2-3年を要する。従って、FSAでは、常に進行フェーズが異なるインタビューを2件程度同時並行で進行させている。
- インタビューを契機に、インタビューおよびインタビュー어가それぞれ関連する資料を発掘し、インタビューに持ち寄ったことにより、新しい資料の収集に繋がったケースも少なくなかった。
- これまで“聞き伝え”程度にしか知られていなかった事柄が、資料に基づき明らかにされた。
- 以前のインタビューで取り上げられた事象に対する別の視点からの評価が提起されることもあり、新たな論点が展開される契機となった。
- インタビュー어は「先達」から選ぶケースがほとんどであり、インタビュー어가事前に調査を十分に行っていないと、インタビュー어의「独演会」になる危険性もあり得る。
- 最終的に公開可能な記録が完成する時点においては、インタビュー어의発言に関する公開可能な範囲(発言箇所、公開時期)などに関する合意書をFSAとインタビュー어との間で書面で交わしておくことは必須である。